

7年 1月 29日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立 藤山台中学校

校長 西 崎 慎 也

事業テーマ	一人一台端末を活用することで生きた知識を育む授業と、ソーシャルスキルを身につける活動から、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる生徒の育成	
取組の目的	リーディングDX指定校として、「生きた知識を育める授業の実現」「ICTの日常的な有効活用」「SSTとSGEの実施」を具体的な手段の柱として研究実践を進めてきた。この実践により、子どもの学ぶ姿にも、指導に当たる教員の姿にも変化が見られるようになってきた。その一方、人間関係の行き詰まりから、不登校になる生徒や卒業後に人間関係の悩みを抱える生徒もいる。来年度、本事業を行うことによって、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる生徒の育成を目的とする。	
区 分 (○印を付ける)	新規事業・ <u>継続事業</u> (総事業年数 3 年間、1 年目)	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	昨年度、小中連携を課題としているので、中学校での取組を小学校と共有した。	
事業名	事業内容	実施時期
外部講師を招いての研修会	各具体的手段の理解と指導技術の向上のために、大学教授などを招いて研修を行う。 	毎学期（計4回）

現職教育及び研修	教員の指導技術の向上のために現職教育を行う。また、その資料作成のために書籍を購入する。さらには、先進的な学校へ学びに行く。 	通年
I C Tの有効活用	I C Tに関する書籍や消耗品等の購入により、これまで以上の有効活用を目指す。	通年
取組の成果 現職教育を継続して行ってきたことで、多くの教員が前向きに授業改善に取り組んでいる。また、大学教授に、授業や SST の取り組みを価値付していただくことで、現状の成果と課題を知り、具体的に改善を進めることができる。		
課題 毎年、校内研究会において全国から多くの先生方に参観をしていただく。しかし、1 学期の校内研究会では、藤山台中学校に異動されて間もない方もおり、課題出しや授業の改善に向けた取り組みが難しい。特に、1 学期は藤山台中に新しくみえる先生方が学べるような形にしたい。		